

作業部会等における意見等

考え方

めざすまちの姿

タイトルについて

「環境像」と題しながら、内容はまちの将来像である(部会) → 福岡市の環境に関する基本的な考え方とまちの姿をあらわすものとして、第三次計画では「計画がめざすまち」とする。

人と自然との関係

- ・ふくおかの自然・特色として、山、海、市街地のバランスがよいということが挙げられる(部会)
- ・「人と自然」、「自然とともにある」というキーワードが挙げられる(部会)
- ・海の近さが特徴、「海洋」の視点を入れる(部会)
- ・「元気になるまち」、「にほひのあるまち」というキーワードが挙げられる(部会)

ふくおかは、海や山などの豊かな自然がまちのすぐ近くにあり、自然と人が共存しているという良さがある。
このような自然と人との調和を大切に守りつづけていく。

博多湾・玄界灘や筑紫野の緑、脊振の山々といった恵まれた自然が、まちやそこに住む人びとと調和しています。

時間的な視点(歴史・将来)

- ・ふくおかは歴史のあるまち、歴史が長い(部会)
- ・「ときを超えて」という表現は、持続可能な社会を表現する文言として残したい(部会)
- ・次世代への視点を入れるべき(部会)
- ・夢のある計画となるような表現を盛り込みたい(部会)
- ・経済発展と環境保全(カフェ)

ふくおかは、古来より、アジアとの活発な交流の中でいきいきと発展し、恵まれた自然の中で新しい文化を築き上げてきた。
このような歴史や文化を、うるおいのある環境とともに未来へ継承していく。

古来より、アジアとのかかわりの中で継承されてきた歴史や築き上げた文化が、うるおいのある環境とともに、次の世代へと確実に引き継がれています。

人と人とのつながり(連携・協働)

- ・産学官、地域の連携強化(カフェ)
- ・さまざまな年代を含む地域一体となった行動(カフェ)
- ・市民との「協働」の視点が大切である(部会)

ふくおかは、大学などの教育・研究機関が多い一方で、今後、少子高齢化が進み環境行動の担い手が少なくなるという懸念もある。
そこで、様々な主体が力を合わせて環境活動に取り組み、環境保全と地域活性化が両立することをめざす。

人びとが協力し、資源やエネルギーを大切に使うなど、生きものと共に住める緑豊かなまちづくりに参加しています。

空間的な視点(市域外とのつながり)

- ・地域循環圏、都市圏との関わりを意識すべき(部会)
- ・本市はアジアとの国際交流が盛んである(部会)
- ・越境飛来物質等への関心の高まり(市民意識調査)

ふくおかをとり囲む自然は市域を越えて繋がっており、人びとの活動は、周辺自治体との相互依存関係の上に成り立っている。また、アジア諸国の環境状況はふくおかの環境にも大きく影響する。
よって、環境に関する様々な取り組みを、市域や国を越えた視点を持って進めていく。

自然との調和のなかで、人びとが地域を超えてつながり、すべての人びとが地球の恵みをわかちあっています。

案1

「豊かな自然と歴史に育まれる
いのち輝くまち」

案2

「未来へ続く人と自然の絆が
見えるまち」

案3

「ときを超えて自然と共に
生きる環境に優しいまち」